



令和5年2月22日（水）発行

学校だより No.15

沼田市立沼田西中学校

課題解決のために具体的な取組を推進します（第2回学校評価アンケートより）

第2回学校評価アンケートの実施にあたり、保護者の皆様にはお忙しい中ご協力いただきまして誠に有り難うございました。さて、本年度は「主体性と支え愛の創造～3つの気（やる気・勇気・根気）を伸ばすワンポイントアップ大作戦～」の重点テーマのもと、コロナ禍の中で工夫した教育活動を実施してまいりました。これまでの取組の成果や課題を学校評価アンケートの結果を通して明確にし、教職員一丸となって学校改善に取り組んでいく所存です。引き続き保護者の皆様や地域の方々のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※自己評価は、第1回と第2回の総合評価となります。学校関係者評価については、評議員（学校関係者評価委員）の皆様の評価です。また、1回目と比較して評価が上がった項目及び下がった項目は太字で示させていただきます。

A:「はい」「どちらかといえばはい」が80%以上（◎は90%以上・Ⓐは85%以上）、Bは60%以上、Cは60%未満

具体的な数値項目と改善策		自己 評価 総合	関係 者評 価
①「学校が重点的に取り組んでいることや子供の学校での様子が分かる」と保護者の80%以上が答えている。 （学校関係者評価委員の意見） ・教職員の努力や工夫がよく分かる（全項目で）。 （改善策） ○学校、学年だよりで生徒の活躍の様子を定期的に伝えとともに、行事前には Home&School で再度案内するなどしていく。また、学校のホームページの充実を図る。		A	A
②学校行事やPTA諸活動に保護者の80%以上が年2回以上参加している。 （学校関係者評価委員の意見） ・コロナ対策を講じながら学校が創意工夫し学校行事を実施していることが分かった。今年度は修学旅行にも行けてよかった。 （改善策） ○今後のコロナの扱いの変化により、保護者の方が参加できる学校行事やPTA活動の機会が増えることが予想されるので、魅力ある行事や活動を企画し、通知や学校・学年だより等で参加を呼びかけていく。 ○通知や学年便りなどのお便りで周知する。また、Home&School で、再度的確に連絡する。 ○来校した保護者にも消毒や手洗いを励行したり、教室の換気を行ったりして感染症対策を徹底し、安心して学校行事に参加できるように配慮する。		A	A
③「授業が分かる」と生徒の80%以上が答えている。 （学校関係者評価委員の意見） ・88%の生徒が「授業が分かる」と回答していることが凄いと思った。放課後学習で雰囲気を高めている実践について詳しく知りたい。 （改善策） ○校内研修で共有できたものをそれぞれ授業の中に取り入れていく。また、めあてや学習内容に沿ってICTを活用していく。		A	A
④生徒の80%以上が授業に満足感をもっている。 （学校関係者評価委員の意見） ・授業の様子から一生懸命学習に取り組んでいる生徒が見られた。ICTやタブレットの活用もあり、昔と違うなと感じた。 （改善策） ○学習内容の更なる定着を図るため、放課後学習や学習プリントへの取組を充実させていく。		A	A
⑤生徒の80%以上が毎日家庭学習を行っている。 （学校関係者評価委員の意見） ・自主学習の定義を明確にするとよい。 （改善策） ○課題提出への支援を通して、学習に取り組む雰囲気を醸成していく。		A	A
⑥生徒の80%以上が朝読書に進んで取り組んでいる。 （改善策） ○引き続き、落ち着いて読書に取り組む習慣が付くように声かけをしていく。		A	A
⑦「相手の立場や気持ちを考えた思いやりのある言動を心がけている」と生徒の80%以上が答えている。		A	A
⑧「学校は悩みやいじめの解消に努めている」と生徒の80%以上が答えている。		B	B
⑨「いじめはしない、させない、許さない」と生徒の90%以上が答えている。 （学校関係者評価委員の意見） ・生徒は解消されてない気持ちがあり、先生方にもっと知ってもらいたいという気持ちがあるのではないか。大人に頼りたいときと自分で解決したいときの中生らしい様子がうかがえる。 ・肯定的回答をしなかった10%の生徒の気持ちが気になる。 （改善策） ○生活記録や生活調査、Q-Uテストなどを活用し、生徒の様子や実態把握を充実させていく。また、気になる点がある場合には、迅速に学年を軸に対応し、全職員に情報を共有していく。 ○継続して生徒自身が「いじめを許さない」という態度や考えをもてるよう、生徒会によるいじめ防止活動を推進していくとともに、学校だよりや学年だよりなどで、各専門委員会の取組や活動を家庭へ周知していく。 ○各クラスのいじめ防止スローガンについて年度末の反省を行い、1年間を振り返り生徒への意識付けを行っていく。		A	A

⑩生徒の８０％以上が、挨拶・返事等適切な言動ができる。 〈学校関係者評価委員の意見〉 ・挨拶や返事がしっかりできることはとてもよいことなので続けていってほしい。 ・中学生の取組を小学生に伝えていきたい。 〈改善策〉 ○日常生活の中でのあいさつについて、生徒への指導を継続していく。 ○服装や髪型などについて、朝の会や帰りの会、下校時などにチェックし、職員が同歩調で指導する。	A	A
⑪部活動を通して、心身の望ましい成長や人間関係づくりに効果がもたらされていると生徒や保護者の８０％が答えている。 〈改善策〉 ○引き続き部活動を通して一人一人の生徒が自己有用感や達成感が得られるように、生徒の取組や活躍を認めていく指導をしていく。	A	A
⑫生徒の８０％以上が家で手伝いをしている。 ⑬生徒の８０％以上が、ボランティア活動や福祉活動に積極的に参加したり、学校生活の中で困っている人を助けたりして、人の役に立っていると感じている。 ⑭生徒の８０％以上が清掃活動に真面目に取り組んでいる。 〈学校関係者評価委員の意見〉 ・手伝いをしてくれたとき、親も子どもに「ありがとう」という言葉を伝え、またやろうという気持ちにつなげたい。 ・とても素晴らしいことなので続けていってほしい。 ・９５％の生徒が清掃活動に真面目に取り組んでいると答えていることが凄いと思った。 〈改善策〉 ○家庭で実践できたことを学活等で共有し合い、手伝いに対する意識を高められるような取組をしていく。 ○道徳の授業で、福祉や奉仕、家族愛について扱うことで、自分ができることについて考えたり実践したりする意欲をもてるよう継続して支援していく。	B	B
⑮生徒の９０％以上が朝食をとっている。 ⑯生徒の８０％以上が、食事や栄養の大切さを理解し、好き嫌いせずに給食を残さず食べている。 〈改善策〉 ○生徒集会における給食委員会の発表の工夫（特に朝食の重要性に注目した発表を心がける）。 ○家庭科や理科の授業での消化・吸収のしくみについて重点的に指導する。	A	A
⑰生徒の８０％以上が進んで体力づくりに取り組んでいる。 〈改善策〉 ○体育の授業を中心に運動への意欲を高めていくとともに、部活動の時間の確保や昼休みの運動の啓発を推進する。	A	A
⑱生徒の８０％以上がメディアセーブウィークで自分の目標を達成している。 〈学校関係者評価委員の意見〉 ・SNSルールをしっかり意識できている結果だと思う。今後のSNS利用のルールの見通しを立てておく必要がある。 〈改善策〉 ○メディアセーブウィークの意義を継続して伝え、意識の高揚に努める。	A	A
⑲生徒の８０％以上が１月６～９時間の睡眠時間をとっている。 〈改善策〉 ○保健体育や学級指導、保健委員会活動で、生徒に正しい知識を継続して伝えていく。また、家庭と連携した指導を推進していく。	A	A
⑳学校は、施設・設備の安全や生徒の危機意識や自己防衛能力の育成に努めていると、保護者や生徒の８０％以上が答えている。 〈改善策〉 ○避難訓練を計画的に行い、安全意識の高まりを持続させていく。 ○避難訓練後の振り返りを充実させることで、実情に沿ったマニュアルに生かす。	A	A
㉑学校は、通学路の危険箇所の確認や生徒の交通事故防止、不審者への対策等に努めていると、保護者や生徒の８０％以上が答えている。 〈学校関係者評価委員の意見〉 ・危険箇所など早急に整備が必要などの場合は関係者に早めに伝えるべきだと感じた。 ・H&Sでの連絡をもらい助かっているが、不審者のときなどは、子どもだけで下校するのが心配。その時は、迎えを徹底してもよいと思う。 〈改善策〉 ○取組の様子や不審者情報を、できる範囲で発信していく。	B	A
㉒学級活動における進路学習や総合的な学習の時間の体験活動等を通して、生徒の８０％以上が自己の生き方について考えている。 〈学校関係者評価委員の意見〉 ・入試のシステムが変わる中で、この評価は素晴らしいと思う。きめ細かな指導が継続できている成果だと思う。 〈改善策〉【第１回自己評価Ｂ→第２回自己評価Ａ】 ○キャリアパスポートの効果的な活用を図っていく。 ○１・２年進路学習会の事前事後指導の改善や資料の準備、生徒による振り返りを行っていく。 ○三者面談の適切な資料提供を行う。 ○３年進路学習・高校体験入学等の改善・充実を図っていく。	A	A
㉓将来の進路などについて生徒の８０％以上が、親子で話し合う機会をもっていると答えている。 〈改善策〉【第１回自己評価Ｂ→第２回自己評価Ａ】 ○家庭で話し合う機会をつくってもらうための資料提供を行う。 ○１年職業講話学習及び２年職場体験学習の改善・充実を図る。 ○教員や保護者の体験が共有したり活用したりできる場の設定をしていく。 ○成績ファイルやキャリアパスポートの効果的な活用を図っていく。	A	A

